

審査結果報告書

2019 (平成31) 年 2 月 8 日

主 査 氏 名

石 川 均



副 査 氏 名

武 田 啓



副 査 氏 名

阿 部 伸 行



副 査 氏 名

半 田 知 也



1. 申請者氏名 : DM15015 高橋 正英

2. 論文テーマ :

Intentional Undercorrection by Implantation of Posterior Chamber Phakic Intraocular Lens With A Central Hole (Hole ICL) For Early Presbyopia

(早期老視患者に対する貫通孔付き有水晶体眼内レンズ挿入術による意図的低矯正)

3. 論文審査結果 :

昨今、社会的に屈折矯正手術は広く受け入れられ、その有効性、安全性が確立されてきた。その方法はエキシマレーザーを用いた LASIK にはじまり、近年は強度近視眼でも治療可能な水晶体を温存した眼内コンタクトレンズの移植、すなわち有水晶体眼内レンズが一般的になってきた。しかし、その合併症には白内障の進行や周辺の虹彩を外科的に切除する必要があった。さらに 40 歳以降のいわゆる初期老視眼での治療は術後の近方視力障害が問題であった。

高橋君は臨床で初期老視を有する患者に対して低矯正の眼内レンズを移植手術し、しかも中央に孔をあけた（貫通孔付き）有水晶体眼内レンズを用いた。

その結果、術後の近方視力障害もなく、その他の術前後の合併症なく、患者は大きな満足が得られたことを発表した。

初期老視の矯正には単に眼鏡（老眼鏡）を用いる方法や左右に度数の異なるレンズにて矯正するモノビジョン法があるが、本方法では視力以外の立体視の低下もなく、最も優れた方法である。

本治療、研究は北里大学眼科、高橋君オリジナルなものであり、治療・研究遂行に無理はなく非常に優れたものである。さらに学位審査での発表、質疑応答もすばらしく、博士の学位に値するものであった。

高橋君の研究は主に屈折矯正に関するもので、本分野ではすでに日本の第 1 人者となっており、今後の益々の発展を祈念する。